



第 4 号

2015年
12月25日発行

よしなし言

中川 幸廣

衰老半睡の八十翁の「今ハ昔」の物語はその昏くなった眼と同様にいささかセピアの色の鵞とバイアスがかかっているに相違ない。

私が教養課程の学生の頃、今、文学部のグラウンドに隣接する高層住宅群の前身は広々とした緑の牧場であった。その風景の思い出を共有する人はどれほどこの世に残っているであろうか。世は移り変わるがならいである。'60年代の末に私は専任の講師になっていた。その頃学生たちの異議申立ての巨大な波が世の中を揺るがし日本大学をも震撼させた。私たちは渦中において自分の立つ位置を決めざるをえなかった。友人の一人は苦悩のあまり吐血し、入院した。私は執行部の立場に立つことができなかった。多くの仲間が去り、私もまた文学部を追われた。それを悔いたことはない。

話は10年ほど飛ぶ。79年の7月の末、私はテムズ河畔のクイーン・エリザベスホテルの天井桟敷で音楽を楽しんでいた。料金は2,1ポンドであった。幕間に老紳士が話しかけて来る。日本人であることを知ると日本は成功した工業国であるとはめる。それからこの音楽は値段の割には立派な内容であろうと同意を求める。ウイーンから来たこの楽団は私をたつぷり楽しませている。この年私の買った1ポンドは450円であった。約1000円。たしかに安い。同意すると彼はさらに、

ブリティッシュミュージアム・ナショナルギャラリーその他の公共施設が無料だろうと自慢気にいう。私は何回も何回もそこに入って、世界の宝というべきものを見せてもらっている。私はそれを告げた。彼はいう。「それがデモクラシーというものだ」。私は、はつとして彼を見つめ深く頷く。英国のデモクラシーの形がはつきり見えたのである。

感性は理性と共に自然から与えられた本質的に人間的な富であろう。音楽を楽しむ耳や美しいものを享受する目などの諸感性の富が人間を豊かにし幸福にする。demons (people) の人間的豊かさのレベルを高める Kratia (gracy) が、おそらくデモクラシーの本質なのである。少なくとも物質的な富のみを求めて奔走する施策よりもはるかに、奥深い豊かな精神や哲学に裏打ちされていることは確かなのである。

佐渡島に沈む夕日を眺めながら育った少年は、文芸の書を耽読した。そのことの大きさは今はよくわかる。女の美しさも、人間の営みのはかなさも、風景の美しささもそれによつて学んだからである。遠い異国の人々の心も、はるかに昔の人々の恋の物語も、私がそこに生きているかのように心をときめかせるものであったからである。

私は何十年もの間、古代文芸に親しんで来た。そして知ったことの一つは、ことばの持つ力と深さと多面性を持つ複雑さである。人は経験を重ね、自分を見つめ、自分を深めて行く。そしておそらく己を理解する深さに応じて他を理解できるのである。文芸の作品もまた自分の深さと多様性に応じてその姿を現して来る。文芸を読むことの心からの喜びである。人間ひとりひとりの心を豊かに育てようとしなない国は貧しい、と半睡の衰老は思わざるをえないのである。

「元法学部教授」

OB・OGだより

かわりだね

八木 忍

卒業したのはまちがいなく国文学科でしたが、現在は理系の職場で働いています。疫学調査を行ない、膨大なデータを解析して報告書を作成したり、小学生の夏休み理科実験教室を開いたりしています。

統計学の用語に「p値」という語がありますが、当初は「桃」が統計学と何の関係があるのか、と思ったものです。それはともかく、繁忙期には、ラボで検査補助をすることもあります。たとえば、食品の細菌学的な検査で、コンラージ棒という器具を使って培地に検体を塗末したり、ノロウイルスの検査で、カキなどの二枚貝から中腸腺を取り出したりします。不慣れな上に、白衣に帽子・手袋・マスクと完全防備で臨むので、悪戦苦闘の連続です。

ほかにも、理系の学会と研究会の事務局を兼務しており、学会誌を出したり、大会を運営したり、顕彰事業を行なったりして

います。大会運営で一番驚くことは、その規模の大きさです。中規模クラスの学会でも演題数は百を数え、ランチセミナーや企業展示などもあります。研究発表も五〇六会場で同時に行なわれるため、会期中は常に会場を飛び回ることになります。

生粋の文系だった私が、なぜ理系の組織に勤めるようになったのか。天の配剤か運命のいたずらか定かではありませんが、卒業後の進路や人生というのは、実にさまざまだと思うのです。いま、読んでくださっている皆さんも、数年後には理系に鞍替えしているかもしれませんよ（笑）。

〔平成7年国文学科卒業〕

たどり着いた先で

君塚 麻衣

お花屋さん。学校の先生。雑誌の編集者。将来の夢がコロコロ変わった私がたどり着いた先は、事務用品・オフィス家具メーカーの総務部でした。給与計算・社会保険事務など幅広く担当していますが、現在のおもな業務は「新卒採用」です。スケジュールの組立て、会社説明会、面接など一通りの

ことを任せられています。

私自身の就職活動といえ、志望業界を何度も変え、企業研究も面接の受け方もどこかしら漫然としたものでした。「しっかりと考えたか。全力を尽くしたか」と問われれば、自信を持って「はい」とは言えない。そんなフワフワした私が、まさか採用担当者になるとは思ってもいませんでした。しかも学生さんに向かって、「当社の強みは……」なんて説いたり、「なぜ当社に入りたいと思いますか」などとたずねたりしているわけなんです。さらに、企業選びの大切さとか、面接のコツといったアドバイスまでしているのです。学生時代の私からは、想像もつかない変わりようです。

しかし今、「全力を尽くしているか」と問われれば、自信をもって「はい」と答えられます。フワフワしながらも手にしたこの仕事は、辛いことや難しいことはあっても、やはり楽しい。自分に合った仕事に就けたことは運が良く、これまでの道のりも悪くはなかった、と思っています。

この場所で、しっかりと将来を見据え、仕事に全力を注ぎたいと、この原稿を書きながら決意を新たにしたいところです。

〔平成21年国文学科卒業〕

日本から五千キロの地で

吉田 充良

私はシンガポールの日本人学校で国語の教員として働いています。大学を卒業後、縁あってこの地にやってきてから一年半が経ちました。学生時代からの夢だった海外生活は、苦勞の連続の中にも学ぶことの多い貴重な経験となっています。

授業で『枕草子』第一段を扱った時、スムーズに進められなかったことがありました。ここは常夏の国で、クラスには十年以上もこの地で暮らしている生徒もいますから、全員に等しく日本の四季を理解させるのは意外に大変なことでした。その一方、生徒たちが取り組んだ文芸創作の中に、日々の生活実感に根ざしたもの、マライオンほか身近な素材を積極的に採用したものなど、ユニークな作品がいくつもあって、驚かされたことがあります。子どもたちの逞しくも軽やかに生き抜こうとする意欲あふれる秀作との出会いに、新鮮な感動を覚えたのでした。

ところで、シンガポールは東南アジアの中心に位置しているので、休暇にはその地の利を生かし、周辺諸国へと出掛けます。

こうした国々で目につくのが各国の「国旗」です。ASEANとして地域が一つになろうとする中で、自国のアイデンティティーを示す、そのシンボルが国旗掲揚という行為につながっているのでしょう。日本ではあまり見られない光景に、最初は戸惑いながら、そんな違いを見つけて母国に思いを馳せる、というのも異国の地にいるからこそ、なのかもしれません。

〔平成22年国文学科卒業〕

一期一会

吉沢（山本）美砂季

平成二十三年三月。周囲が二、四年で卒業していく中、私は七年かけてようやく通信教育部を卒業しました。その当時は、もう少し早く卒業したかった、というのが本音でしたが、あれから四年経った今、この七年間は決して無駄な時間ではなかった、と思えるようになりました。

私は他の学生よりも三年間余分に学生生活を過ごしたからこそ、卒業後も交流が続く学友や素晴らしい先生方と出会う機会に恵まれたのです。また、日々の学習で学び

得た多くの知識も、私にとってはおかけがえない財産となりました。

今の私はこうした一期一会の積み重ねから成り立っていると実感しています。とくにそのように強く感じたのが、卒業後に知り合った著名なギタリスト、吉川忠英さんとの出会いです。吉川さんはほぼ毎月ライブを行っていて、私も何度か聴きに出かけていますが、その会場が、偶然にも卒業論文で題材にした松尾芭蕉の『更科紀行』の舞台、長野県千曲市嬬捨の長楽寺だったのです。卒業論文を書く際にもこの寺を訪れましたが、卒業してからもこうして長楽寺に何度も足を運ぶようになるとは、夢にも思いませんでした。

現在は子育てに追われているため、ライブに行ったり、学生時代のように何かを学んだりする時間がなかなか取れなくなってしまうましたが、これからも機会を見つけては、一期一会の精神を大切に、様々なことに挑戦していきたいと思っています。

〔平成23年文学専攻（国文学）卒業〕



談話室

研究余滴

—ジャンルの特色を示す語・語彙

小久保 崇明

まず擬声語について考える。

保坂弘司博士は、『大鏡全評釈上』で、「当時は擬声語・擬態語的な副詞はかなり発達していて、説話文学にはとくに著しい。」と説く。保坂博士のいう「当時」とは院政期を指している。

『今昔物語集』の擬声語については、山口仲美博士の高論『今昔物語集』の擬声語・擬態語（『平安期の言葉と文体』）がある。それによると、擬声語は、異なり語数30、使用総数50である。しかし、同期の説話集では稀少である。『打聞集』に1例（「はた」。この語『今昔物語集』に4例、『古本説話集』に「そよ」「そよそよ」の各1例（『今昔物語集』には顕在せず）に過ぎない。

院政期の説話集で、擬声語を多用するのは『今昔物語集』に限定されるため、保坂博士の、おしなべて、この期の説話集に擬

声語が豊かである、の記述には問題がある。次に鎌倉時代における下二段に活用する謙譲の補助動詞「給ふる」についてみる。

東京教育大学の岩井良雄（元）教授は、『日本語法史鎌倉時代編』で、この「給ふる」を、「平安時代からの伝統語であるが、鎌倉時代には、かなり衰えて、もっぱら『説話集』に集中し、軍記物語、随筆などには、まったく現れない。」と説く。

岩井氏の言われるように、この語、鎌倉時代では、説話集のみに集中して用いられていたのであろうか。概して、この期の説話集にその使用例は多い。『発心集』に16例、『宇治拾遺物語』に15例存在しているからである。しかし、『十訓抄』に2例、『閑居友』にも1例見出せるに過ぎず、『古今著聞集』にその使用はないようである。歴史物語の『今鏡』計11例、『水鏡』3例顕在する（室町期の『増鏡』8例）。また、擬古物語『山路の露』でも使用率が高い。軍記物語や日記類には、その使用例は極めて少ない。鎌倉時代語の資料として不可欠の延慶本『平家物語』に、おもひたまふ「思給候。」おもひたまふかし「所思給」のごとく2例存在している。日記文学の『とはずがたり』には2例見出せるが、『たまきはる』『うたたね』や、随筆『徒然草』にはない。

筆者は、これまで鏡物を中心に、その語・語彙・語法などを考えてきた。しかし、ジャンルの特色を顕示し、他のジャンルの中には用いられていない確かなそれ（除く、固有名詞・歌語）を見出ししていない。

貴人の人数を数える接尾語に、「所」とこがある。平安時代の主要な作品では、『宇津保150・栄花103・源氏62・狭衣14・落窪10』、『大鏡』68例などと顕在する。中世では、『今鏡』11、『増鏡』7、『たまきはる』4、『古今著聞集』『とはずがたり』各3、『十訓抄』『御伽草子』各2、『住吉物語』『こわたの時雨』『十六夜日記』『小夜衣』の各1例が見出せるに過ぎず、衰退したようである。『大鏡』のその「所」と『今鏡』『増鏡』のその敬意の対象を比べると前者に高い。中世末期の『とはずがたり』の3例中2例は「御一所」であり、『小夜衣』の1例は「御二所」、『御伽草子』の2例は「御二所」「御三所様」で、接尾語「所」の敬意は漸減している。

『今鏡』『増鏡』にこの「所」が、中世の他の作品に比し多用されているのは注意してよい。中世では、この接尾語、鏡物の特色を示しているようであるが、『水鏡』にその使用例をみない。

「元法学部教授」

読

書

案

内

国語辞書を比べてみる

鈴木 功真



「辞書によれば……」とは何らかの判断を辞書に頼る時の表現だが、どの辞書を利用したか問題にしないことがある。また、持っている「電子辞書」の自身がどの辞書なのかを意識しないことも多い。

一方で、辞書について面白可笑しく論じたものとして、赤瀬川原平『新解さんの謎』（文春文庫）が話題になったように、辞書それぞれの違いが意識されることもある。大きさの違いにも注意したい。

辞書編集部を舞台にした小説に三浦しをん『舟を編む』（光文社文庫）があるが、登場する『大渡海』は中型辞書である。実在の辞書でいえば『広辞苑』（岩波書店）、『大辞林』（三省堂）、『大辞泉』（小学館）に相当する。大型辞書に『日本国語大辞典』（小学館）、小型辞書に『岩波国語辞典』、『明鏡国語辞典』（大修館）、『新明解国語辞典』（三省堂）等がある。

我々が辞書を比べようとする時、手掛かりが欲しくなる。闇雲に比べていると、「十一月」という語はどの辞書も「一年の十一番目の月」としかなく、「ぬいぐるみ」はどの辞書も「くまのぬいぐるみ」という用例ばかりといったように、差が見られないことも多いからだ。同じ語を辞書的に説明すると、差がないことはよくあるものだ。

そこで、差のある語として、例えば「ありがたい」を見よう。いずれも最新版から私に省略して示す。まず、『広辞苑』は「①存在が稀である。②生きがたい。③すぐれている。④恐れ多い。⑤感謝したい

気持ちである。」の順に多義を示す。

次に『大辞林』は「㊦①感謝にたえない。②うれしい。㊧①ありそうもない。②暮らしにくい。③めったにないほどすぐれている。」の順に多義を示す。

この違いは、本来の語義、つまり古語用法から示すか、現代用法から示すかの差であって、同じ中型クラスの『大辞泉』は『大辞林』と同様である。

小型辞書では、『岩波』は「よい事や物に恵まれて、感謝したい気持ちだ。かたじけない。」とある。

『明鏡』は「①感謝したくなる気持ちだ。②尊く、もったいない気持ちだ。」と二義に分ける。

『新明解』は「①めったに受けることの出来ない恩恵に接して、身の幸せをしみじみと感じる様子だ。②かけがえの無い経験をして、心から良かったと思う気持ちだ。③物事が自分にとって好都合に運ばれ、うれしい気持ちだ。④めったにない加護を与えてくれ、自然に手を合わせなくなる気持ちだ。（②③④は、反語・皮肉の意を含めて用いられることがあり、まれには軽蔑のニュアンスが込められることもある。）とニュアンスに踏み込んだ記述も見える。

中型辞書は現代用法や古語用法を示すほか、百科項目を調べることもできる。小型辞書は古語用法を示さないが、ニュアンスに踏み込むこともある。どれが良いかは使用場面によるのだが、辞書は同じではないことの一つの参考になれば幸いである。

〔国文学科教員〕

荻野ゼミでは日本語学を研究対象に、毎年異なる視点で授業を進めています。昨年度は日本語に関するアンケートを実施。その内容は、グループごとのテーマから導かれた設問で構成され、たとえば、「遠恋」「イ



— 2015年度後期ゼミ (10月27日) —



荻野ゼミ

(荻野綱男先生担当)

火曜5限

夕飯」などの略語、「ググる」「○○なう」といった新語の認知・使用度、「スピード・速さ・速度」「やっぱり・やっぱり・やはり」の使い分け、「失笑」「煮詰まる」の誤用など、言葉の使用実態調査を目的としたものです。最終的には、学内外の約五百名からの回答を得て、年齢・性別などの観点から分析を試みました。

今年度の前期は文献調査、後期はWWW検索を中心に講義が行われています。文献調査は各自の卒業論文のテーマに関する先行研究を読み、どのように研究されてきたか知見を深めました。WWW検索では、検索エンジンを利用することで分かる言葉の現状を、一人ひとりが確認し実感することで、日本語に関する論文内容の妥当性を検証する力を養うことを目標としています。

また、夏休みには軽井沢研修所にてゼミ合宿を実施しました。例年、三年生は卒業論文のテーマ発表、四年生は卒業論文の中間発表を行います。それぞれのテーマや内容に関して先生からアドバイスを受けたり、先輩・後輩に関係なく意見を交わしたり、実に有意義な時間でした。今年はいいにくの雨天でしたが、先生の計らいで、車でアプトの道や眼鏡橋まで足を運びました。

卒業論文のテーマは日本語に関するものという原則はありますが、自由度が高く、内容は様々です。言葉の使い方に関するもの、物や人の名前に関するものなど、各自興味関心を持った内容で、試行錯誤しながら研究を進めています。調査の方法もアンケート調査を行ったり、ウェブを活用してデータを収集したり、ソフトを利用したりと多様ですが、ゼミの講義や実践で培った経験やプロセスが大きな基礎となって各自の研究に活かされています。

〔国文学科4年・中島明日可〕



— 2015年度夏合宿 (8月25日～27日) —

国文学科ヒストリー④

1955年（昭和30年）

- 2月17日 坂口安吾死去
- 4月 1日 日本大学大学院
法学研究科政治学専攻修士課程設置
法学研究科政治学専攻博士課程設置
文学研究科哲学専攻修士課程設置
医学研究科獣医学専攻博士課程設置
- 4月 6日 帝銀事件で最高裁上告棄却
- 4月18日 アインシュタイン死去
- 5月11日 国鉄宇高連絡船「紫雲丸」沈没
- 5月14日 東側8カ国ワルシャワ条約機構
『広辞苑』初版刊行
- 5月25日 1円アルミニウム硬貨初発行
- 6月22日 三鷹事件で1人死刑11人無罪確定
- 7月25日 日本住宅公団設立
- 8月 6日 第1回の原水爆禁止世界大会
- 8月24日 森永ヒ素ミルク中毒事件発覚
- 9月25日 日本大学国文学会幹事会
- 9月30日 米俳優ジェームズ・ディーン交通事故死
- 10月13日 日本社会党誕生
- 11月 6日 日本大学国文学会総会
- 11月12日 文学部研究発表会
- 11月15日 保守合同で自由民主党結成



岩波書店刊『広辞苑』



自由民主党誕生の様子（『昭和30年代大百科』転載）

【国内外の動き】終戦から10年、日本経済の規模は西欧主要国と比べ、いまだ心もとない状況にあった。しかし、ようやく戦後の混乱期を抜け出し、経済成長を予感させた。同年7月25日、日本住宅公団（現・UR都市機構）の設立は、その幕開けとなった。一方、混乱つづきの政治は、同年11月15日、保守合同によって自由民主党が誕生し、いわゆる「55年体制」の下、長期にわたる一党優位の政治体制がかたまつた。政治の落ちつきや国民生活の向上によって、人々の関心が衣食住に注がれ、やがて知識への欲求にも及んでいった。岩波書店から『広辞苑』初版が刊行されたのは、同年5月25日のことであつた。

【学内外の動き】学内では4月に大学院法学研究科政治学専攻修士課程及び博士課程、大学院文学研究科哲学専攻修士課程、大学院医学研究科獣医学専攻博士課程の4課程が新たに設置され、大学院の拡充がはかられた。一方、学科内では9月25日に日本大学国文学会幹事会が開催され、11月6日には恒例となつていた日本大学国文学会総会が開催された。総会後の研究発表会では、①「歌舞伎の厄払いについて」（井草利夫）、②「源氏物語における人間像」（石森曙峰）、③「斎藤茂吉の歌について」（鎌田太郎）、④「万葉人と想像力」（菅原重兼）と題する研究発表が4氏によって行われた。

キャンパス点描

夕闇せまる真冬のキャンパス。そこにイルミネーションが登場したのは、平成21年12月4日のこと。以後、冬季限定で1号館前の大樹を飾るLED電球が、家路に急ぐ足を幻想的な世界へとといざない、心を和ませてくれた。もともと学生の授業や課外活動への士気高揚が目的で、また近隣住民との融和を願って実施された。しかし、折からの経費削減により、昨年限りで見納めとなった。ああ、惜しいかな、真冬の夜空に煌めく灯を、ふたたび文理のキャンパスへ。



1号館前の大樹を飾るイルミネーション

掲 示 板

オープンキャンパス

受験生を対象とした恒例行事ですが、今年度は7月19日と9月27日の2回開催されました。来校者数は昨年よりも増え、両日合わせて1万人を超えました。

新本館（仮称）建設中

基礎工事進行中です。写真は7号館4階東南側の窓から撮影したものです。完成時には7階建ての巨大建造物が立ち上がり、この窓から見える風景も新校舎の外壁だけ、ということになりそうです。卒業生のために付言すれば、右手奥が不屈の4号館、中央が新3号館の南棟部分です。



会報会員募集中

本誌『国文通信』は年2回（6月、12月）の発行です。国文学会の会員には『語文』とともにお送りしていますが、『国文通信』の送付だけを希望される卒業生のために、会報会員の制度を設けています。購読料は**2年分（4冊）1,000円**です。1年分（2冊）500円相当ですが、2年単位でお申し込みください。お支払いは郵便振替口座をご利用ください。

00180-3-11183 日本大学国文学会

郵便局に備え付けの「払込取扱票」通信欄に「国文通信購読料1,000円」と記し、購読開始の号数か年度を付記してご送金ください。卒業年次（何年何月卒）の記入のほか、差し支えなければ職業・勤務先などお書き添えください。

本誌は国文学科（通信教育部と大学院の国文学専攻を含む）の同窓会組織の確立・拡充を見据えた試みの一つとして発行しています。今後とも会員の増員に向けて、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

原稿募集

本誌は皆様からの投稿を随時受け付けています。詳細は国文通信編集委員会までお問い合わせください。文理学部国文学科のホームページ「お問い合わせ」（画面右上）から編集委員会宛にメールを送ることができます。感想などもお寄せください。

編集後記

◆第4号をお届けする。まずは玉稿をお寄せくださった執筆者の方々へ、心より御礼を申しあげたい。◆本会報の発行は、既報のとおり6月末と12月末の年2回である。したがって、今号で2周年をむかえる。創刊準備から、またたく間に2年の歳月を経過した。まさに「歳月は人を待たず」である。昨冬の今頃、暗中模索の末に刷り上がったばかりの第2号を手にして、安堵したことを思い起こす。ここに至って、どうやら紙面も固まってきたようである。◆キャンパスが新校舎建設で変貌を遂げようとしている。その一方で、文科省による入学定員超過率抑制の通達は、新校舎建設の明るい話題に影を落とす。数年の後、全国どの大学でも入学定員枠を遵守しなければならぬ。はたして本学部は、この難局を乗り切ることができるのであろうか。このままでは経営難に陥ると必至。その命運や如何に。

（は）

国文通信編集委員会
鈴木晴彦・竹下義人

第 4 号

2015年
12月25日発行

日本大学文理学部国文学科
国文通信編集委員会
〒156-8550
東京都世田谷区桜上水3・25・40